

# スギ品種別試植林について

岡崎営林署 水野 秋一

## 1. はじめに

スギの造林地は、北は青森県から南は屋久島までの広い範囲にわたり、各地方それぞれ特色のある郷土スギが植えられている。

また、品種についても各方面で試植研究がなされており、名古屋営林局でも、昭和47年度、造林課の指導のもとに「郷土スギ試植林」が各署に設定され、その成育経過を調査中であるので、いずれその地域に適した品種が見出されるものと思うが、当署には、それより先の昭和44年春に、最も適したスギの品種はどれかを指向するため試植林を設定しており、本年で10年を経過したので、一つの区切りとして、調査分析したので、その結果を報告する。

## 2. 試植林の概要

表-1のとおり。

## 3. 試植品種の内訳と配置図

表-2、表-3のとおり。

## 4. 調査方法

調査木は、各品種35本とし、この中の平均木を、各1本ずつ選定し、樹幹析解を行った。

## 5. 調査結果

(1) 表-4は、品種別に樹高の連年成長量を積上げたものであるが、10年目の現在の樹高は、タテヤマスギ、クラガリスギが非常に良く、以下、カワイスギ、ホウライジスギと続き、一番成長の悪いのは、イボラスギであった。

又、1年ごとの成長量について見ると、タテヤマスギ、クラガリスギは、2年目、3年目に良く伸び、4年目以降も平均して伸びている事がわかる。

そしてイトシロスギについては、植付当時余り成長は良くなく、7～8年目頃より急に成長している。

(2) 表-5は、10年目の現在の胸高直径を表にしたものであるが、樹高成長と直径成長は必ずしも同一でなく、一番良かったのは、ホウライスギで、一番悪かったのは、ニューカワスギである。

(3) 表-6は、高さ1.2mと4.2mの直径を測定し、その比を完満度として表したものであり、数字の小さい程ウラボケ型である。

ここでも、樹高成長の良い、タテヤマスギ、クラガリスギは、完満度も高かった。

## 6. ま と め

表-7は、今まで報告した、樹高、直径、完満度について、順位に点数を与え表にしたものである。

この表の総合得点で判定すると、樹高成長の一番良かった、タテヤマスギが一番良く、以下クラガリスギ、カワイスギと続き、イボラスギが、一番悪いという結果になった。しかし、今回の調査は、10年目ということで、あくまでも中間的なものであり、この結果をもって、すべてを決定する事は出来ないが、今後とも成長経過を見まもって行きたいと思っている。

なお、この試植林は、定光寺自然休養林の中にあり、品種的にも、当地方では珍しいものであるところから「スギ品種別展示林」としても、育成していきたいと考えている。

表-1

場所	和戸国有林 112号林小班
標高	155 150~160
方位	W
傾斜	20 15~25
基岩	チャート
土壌型	B <sub>D</sub> (ol)
年平均気温	15.4°C
年間降水量	1700 mm
降雪	ほとんどなし
(新植)	昭和44年3月
保育	下刈6回 つる切7回(内K1-4回)

表-2

系統	品種	原産地
表系	ホウライジ	愛知 南設楽郡
	クラガリ	額田郡
裏系	タテヤマ	富山 中新川郡
	タカラ	岐阜 上宝村
	ニューカワ	丹生川村
	カワイ	河合村
	ムマイ	荘川村
	イトシロ	白鳥町
	イボラ	
	オギノ	鳥取県 智頭町

表-4

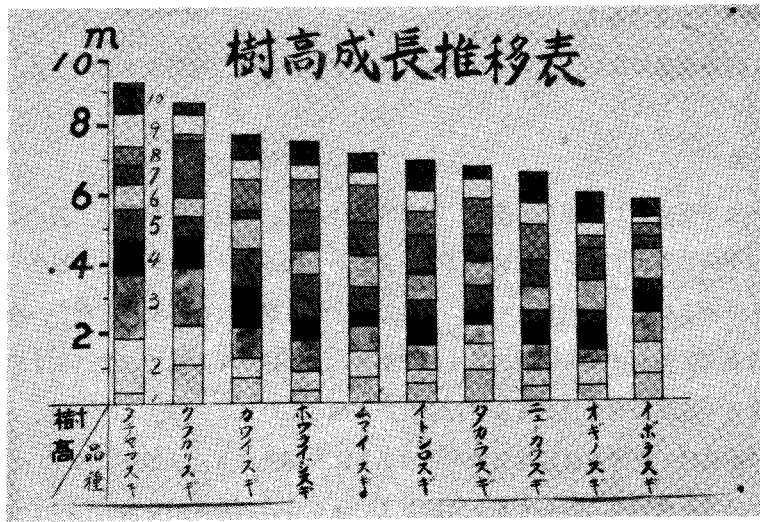


表-3

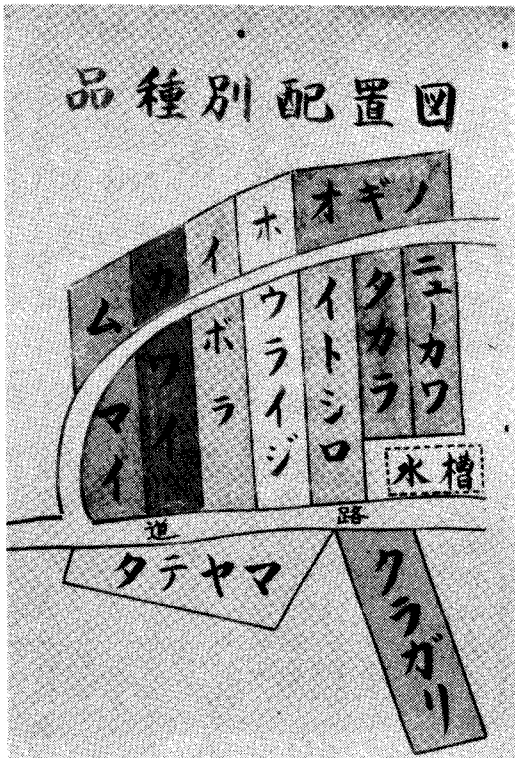


表-5

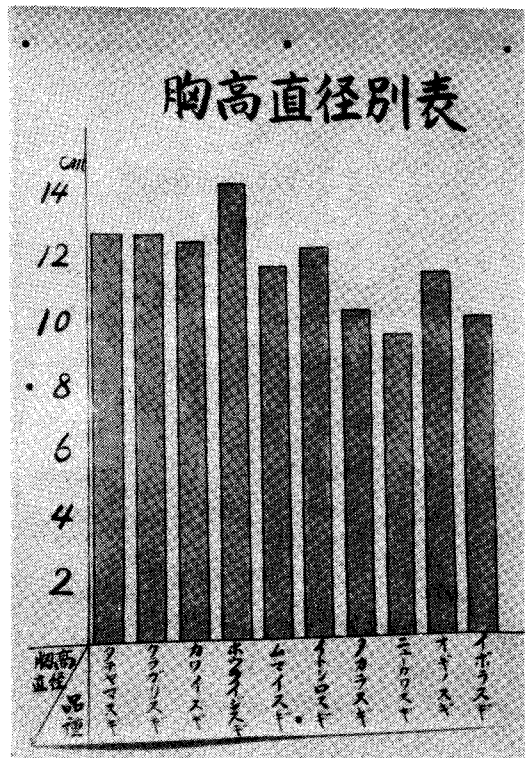


表-6

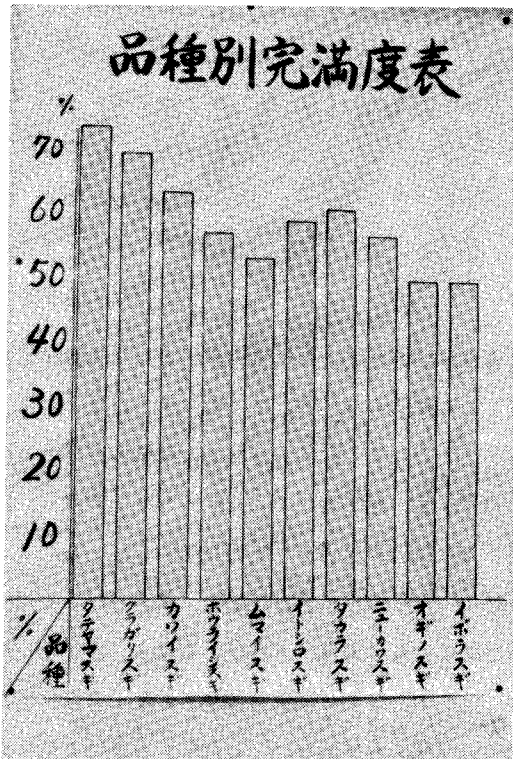


表-7

### 総合判定表

品種	樹高	胸高	完満度	計	順位
タチヤマスギ	10	8	10	28	1
クラカリスギ	9	9	9	27	2
カワイスギ	8	6	8	22	3
ホウライシスキ	7	10	4.5	21.5	4
ムマイスキ	6	5	3	14	6
イトシロスキ	5	7	6	18	5
タカラスギ	4	2	7	13	7
ニューカフスキ	3	1	4.5	8.5	8
オキノスキ	2	4	1.5	7.5	9
イボラスギ	1	3	1.5	5.5	10